

タイトル	間伐における低コスト化の推進と需要者ニーズを踏まえた採材の現地検討会
実施年月日	平成25年10月16日(水)
実施場所	岩手県奥州市水沢区 水沢地区センター
参加者	局署：東北森林管理局、岩手南部森林管理署、遠野支署 14名 外部：県南広域振興局林務部、遠野農林振興センター、奥州市、管内各森林組合、管内各国生協、管内各林業事業体(株)オノダ 25名 計 39名

【取組の概要】

現在、国有林の間伐における低コスト化は、ある程度高性能林業機械の導入が図られ、森林作業道についても合理的に配置されてきた。しかし、生産性について着目すると、若齢林分や急傾斜地においてはその生産性が低下すると考えられるため、人員や林業機械の配置を考慮した効率的な作業システムについて再度検討し、低コスト化を推進する。

また、生産請負事業量が増大している現在、ともすれば画一的な採材になりつつあること、オペレーター個人の力量に委ねられる採材について、「商品としての素材」との意識付けをしてもらうため、製材工場において需要者のニーズを認識し、生産請負現場において採材について検討する。

(当日は、製材工場の土場において製材する前に外された素材を検証し、それを踏まえ生産請負現場にて採材について検討する予定だったが、台風26号最接近のため現地検討は中止)

【取組の成果】

- ・作業システムの整備・改善をもたらす好循環を再認識できた。
- ・生産性向上や低コスト化の視点について、具体的に確認できた。
- ・管内各事業体に事業実行の実態やこれまでの現地検討会の定着状況、国有林への要望について事前にアンケートを実施し、その結果と分析を行った。
- ・製材工場の担当者から需要動向と製材に適さない素材(欠点)について、具体的に写真等により説明してもらい、採材する際の留意点がわかった。

【出された意見】

- ・素材に付くキクイムシの生態について：穿孔しながら大きくなり、材が動くと虫も動き回る。製材してからも穿孔は進行し、商品として扱えなくなる。
- ・キクイムシの防除方法について：以前は薬剤を散布したこともあるが、現状では採材後できるだけ早く製材所に輸送することが有効。
- ・アンケートについては参考になった。
- ・今後、架線系の林業機械の導入を検討している事業体があるか。(参加事業体では無し)

【今後の課題】

台風の影響で座学のみだったため一方的な説明に終始なってしまったが、やはり現地での具体的検討が必要。また、適正に採材した素材について、虫害(キクイムシ)の影響を最小限にして製材所等へ運ぶ方策、体制の検討が必要である。

タイトル

間伐における低コスト化の推進と需要者ニーズを踏まえた採材の現地  
検討会



岩手南部森林管理署長から開催の挨拶



局担当官からの説明



検討の様子



森林管理署等からの説明



(株)オノダ担当者の説明



遠野支署長から閉会の講評